

テーマ 設置主体病院との一体化した教育連携・協力
地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして

カテゴリー ③ 教育方法

1. 学校概要 学校名 小澤高等看護学院 所在地 小田原市本町 1-1-17 課程名 3年課程
1学年定員数30名 就業年限 3年

内容 地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして設置主体の病院と一体化した教育連携・協力の教育について報告する

設置主体病院との一体化した教育連携・協力
～地域住民の「心のオアシス」となれる看護師の養成をめざして～

小澤高等看護学院 学院長 小澤顯一
教員一同

学院の沿革

当学院の位置する小田原は、後北条氏の「城下町」として発展し、江戸時代には東海道屈指の「宿場町」として栄え、明治期には政財界人や文化人たちの「別荘、居住地」として愛されてきた神奈川県西地域の中心都市です。緑豊かな山、清らかな川、雄大な海、肥沃な平野、温暖な気候。多くの先人によって築かれた長い歴史と伝統・文化が息づき、市の東部にはショッピングモールやアミューズメント施設がオープンし、小田原駅前には駅ビルやマンションが建設され大いにぎわっています。鉄道も5社6路線が乗り入れ、交通至便な街でもあります。

設置主体である医療法人同愛会は明治45年に現在の地に小澤病院を開設し依頼 112年余にわたり県西地区の地域医療の担い手として「地域住民が住み慣れたこの土地で少しでも長く健やかに過ごせる」ことを願い貢献してきました。現在では年間救急車を2000台以上受け入れている救急医療を担う地域の中核病院でもあります。病床数は202床です。当学院は県西地区の看護師不足と本法人が目指す地域医療の実現のため昭和63年4月に設立され開学以来37年を経過し900人余りの地域で活躍している卒業生を輩出している小田原地区では一番歴史の長い学校です。

学院は小田原城のすぐ近くにあり、屋上からは海の見える定員30名の女子だけの小さな看護学校です。ひとりひとりとじっくり向き合い国家試験合格に取り組み自律した看護学生の育成をめざしています。学院の教育理念は生命の尊厳と個人の尊重に係わる者として人を愛する慈愛に満ちた「やさしい心」を備え、専門的知識を常に吸収しようと自ら考える「科学する心」を持ち、常に自らを成長させる自律した人間として行動できる「自律する心」3つの心を持つ専門職を育成することです。設置主体の法人の理念である「医療を通じて社会に貢献する」を基礎として県西地区の地域医療の担い手として法人の趣旨を基に地域を愛し、理解し、そこに住む地域住民1人1人を大切に、その心のオアシスとなれる地域で活躍できる看護師を育成しています。

学院の教育の特徴

同一敷地内に学院の設置者であり設置主体病院である医療法人同愛会小澤病院があります。実習はもちろん講義や行事など、病院のスタッフが密接にかかわります。専門基礎分野の講義の多くは学院長(医師)を始め小澤病院の医師や薬剤師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士などが担当します。基礎看護技術は認定看護師も教授にきます。卒業前の統合実習にあわせて行う看護管理の講義では、教員、看護部長、副看護部長、各病棟師長、病院を管理する各部長、責任者からそれぞれの立場での病院管理の講義を受けるのも特徴の一つです。

実習の70%は小澤病院で実施しています。1月に1度、看護部長、副看護部長をはじめ各病棟、透析室、手術室、地域連携室、外来等の師長、実習指導者等と学院の教員全員で実習指導会議を行います。実習する病棟の指導者だけでなく看護部の幹部全員が出席して学院の教育方針、実習内容等について共有して指導に当たります。また病院で実施している実習指導委員会に教員も出席して意見交換を行います。現場で実際に学生指導する指導者からはかなりシビアな意見がでることもありますが忌憚のない情報交換が行え、病院の指導者と教員で学生がより良い実習を行える様に調整をしています。小澤病院の看護師の8割が卒業生なので実習や教育内容についてもイメージができスタッフ全員が温かく学生を迎えています。

臨地実習では医師や他職種から学生は受け持ち患者について病歴や治療、データ、画像の見方など臨床講義を受けることができ、よりエビデンスに基づいた患者理解ができます。学生は病院で実施している多職種が連携して行う退院調整カンファレンスに出席することにより多職種の連携と受け持ち患者への移行支援について学び在宅支援など継続看護についても学んでいきます。3年の後半の実習では手術室、外来、透析室、薬剤部、診療技術部門(栄養科、検査科、放射線科、リハビリ室など)に行き、治療・診断に係る職種の業務内容から患者の療養生活を支える職種の院内連携について学びます。看護部だけでなく病院で働く医療スタッフ、事務部門の協力を得て実習を行うのも特徴の一つです。

病院と一体化した教育の一環として卒業生を病院から大学に派遣し看護教員の免許を取得させ、専任教員として教育に当たってもらいます。

講義・実習だけでなく法人の幹部職員は入学式、卒業式、学院祭、年末のキャンドルサービスなどの節目の行事に来賓として出席し学院との連携をはかります。副学院長は毎週行われる病院の幹部会に出席し、学院が今、実施している教育内容等を伝え病院幹部と共有します。学生の健康管理は病院の産業医が校医を務めています。週1回学院を訪れ担当教員と意見交換をして学生の健康状態について情報の共有をしています。また、病院の防災担当による防災訓練を実施しています。

学習支援の一環として病院が契約しているWEB配信型eラーニングコンテンツを学生が使用できるようにアドレス、ID・パスワード等の設定を病院の企画部長が学院に来校し学生に使用方法を教えます。「国家試験の過去問題」「看護教材の動画」の視聴が可能になりになり効果的な学習ができます。

令和5年度からは講義とは別に「楽しく看護技術を学ぼう」をコンセプトに学院と小澤病院の共同学習会(1回/月)を卒業生(1・2年生スタッフ)を指導者として1年生に技術演習を行いました。ほぼマンツーマンで教えてもらうため学生も指導者も真剣です。学生からはとても楽しかったという感想でした。令和6年度からは1年生だけを対象とするのではなく2年生も一緒に実施する予定です。

コロナ禍には卒業時の3年生を送る会を見送っていましたが、今年度からは学院の在校生、病院の職員と共同でバレーボール大会を実施する予定です。小澤病院の職員も学生の卒業を祝福します。

当学院の教育の特徴は講義・実習だけでなく様々な学院運営に設置主体病院の職員が協力して学院と一体化して、法人の理念である「医療を通じて社会に貢献する」地域住民1人1人を大切に、その心のオアシスとなれる地域で活躍できる看護師の育成を行っているところです。



学院から見える小田原城址公園



実習指導会議の風景



実習中に医師から受ける臨床講義



小澤病院との共同学習会